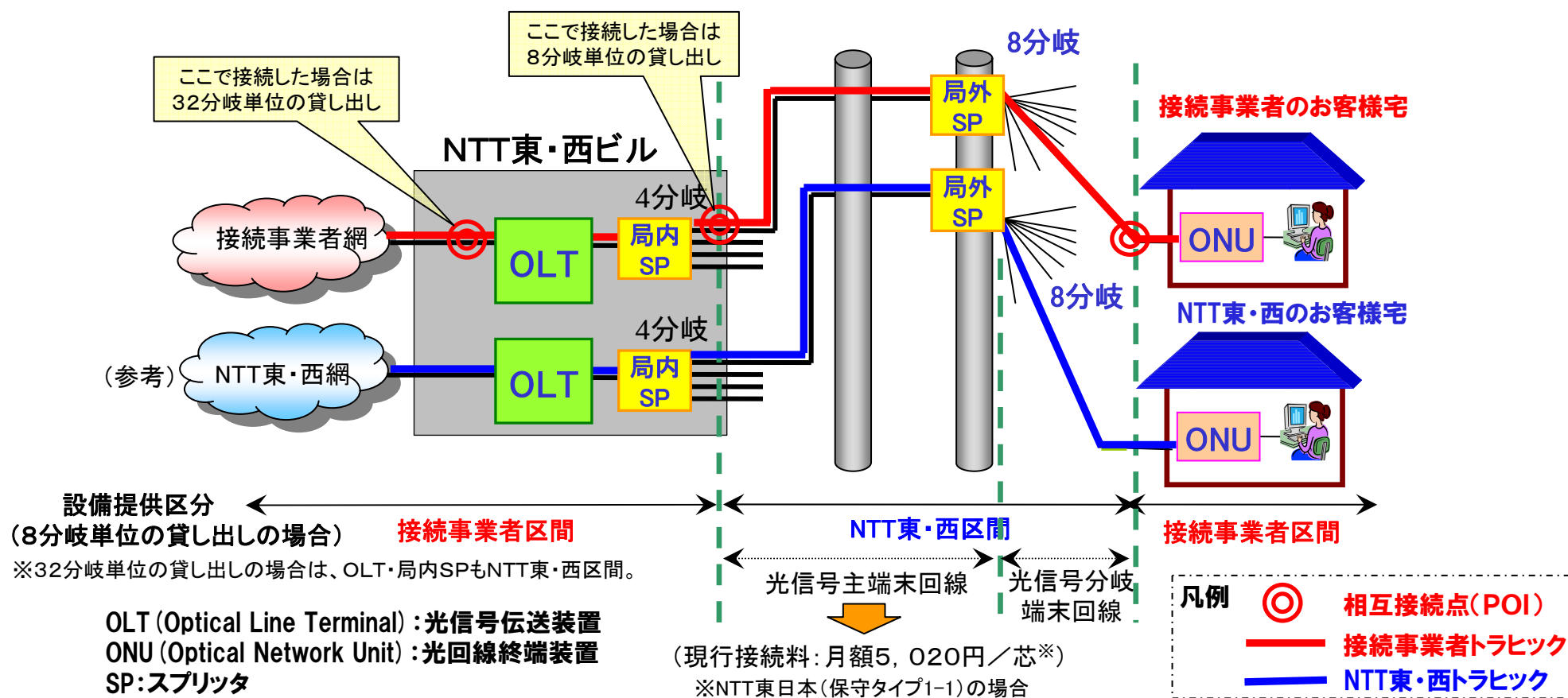


1. 現在のシェアドアクセス方式における課題

- ・接続事業者毎に、NTT東・西より8分岐単位(もしくは32分岐単位)で光ファイバを借りる形で、戸建向けFTTHサービスを展開。
- ・設備稼働率の観点から非効率な貸し出し形態。



2. NTT東・西を含む複数事業者によるOLT共用方式

- 事業者振り分け用SWを設置し、新たな相互接続点を創設することで、NTT東・西を含む複数事業者によりOLT共用が可能。また、1ユーザ単位の貸出とすることで、設備稼働率が向上し、1ユーザあたりのコスト低減化が可能。
- 多数の事業者がFTTHサービスに参加できるようになり、事業者間の競争が促進。その結果、お客様の利便性向上、FTTHサービスの一層の普及促進が期待される。

